

林 剛一 バリトン独唱会

～ 感謝 ～

ピアノ：林 邦子

2026年 2月14日(土)

13:30開場／14:00開演

名古屋電気文化会館コンサートホール

入場無料（要予約）

演奏曲目

小林秀雄 作曲：「落葉松」

チャイコフスキー 作曲：「ドン・ファンのセレナーデ」

メンデルスゾーン 作曲：オラトリオ《エリア》から「ああ、もう充分です！」

モーツァルト 作曲：歌劇『フィガロの結婚』から

伯爵のアリア「裁判は勝ったと～私が溜息をしている間に」

ヴェルディ 作曲：歌劇『ファルスタッフ』から

ファルスタッフのアリア「おい！ おやじ！」 他

予約方法



teket

<https://teket.jp/>



teket(テケト)に電子チケットをご予約ください。

申し込み開始日 8月1日 9:00 から

＊おひとり様2枚まで申し込み可。キャンセルの場合は

下記お問い合わせ先まで、お知らせ下さい。

＊未就学児入場不可。

マネジメント・お問合せ先 (株)Office Kei info@officekei-ngo.co.jp 090-7303-0777 (伊藤)

主催 林 剛一 愛知教育大学退職記念独唱会実行委員会

書 木村博昭 愛知教育大学特別教授

独唱会開催にあたってのご挨拶

この度、このチラシのような独唱会を開催する運びとなりました。

愛知教育大学に教員として勤めて39年、2026年3月をもって完全に退職となります。その間、発声法の研究(自然体による自然な発声～横隔膜で支えた声、G.タッデイ氏の教えを実現する為に～)を続けて来ました。ようやくこれではと言う結論に至りました。今回の独唱会で私の声、歌、そして当日のプログラムに添付する資料をもって、私の愛知教育大学最終講義とさせていただきます。

よって大学研究費を開催費用の一部を使用する為、無料(要予約)にしました。

私の声楽の勉強は、高校2年の終わりから始まり、最初の手解きを関西声楽界を代表するバリトン歌手三室堯先生から受け、先生の発声、声への拘り、そして先生がバリトン歌手ではG.タッデイ氏が一番良いと言われたことが、私の研究の礎となりました。その後、東京芸大受験時から畑中良輔先生の教えを受けることとなり、音楽、声楽に対する勉強の仕方、考え方などを東京芸大、大学院在学中、厳しくも愛情ある指導を受けました。又、在学中にはロシア歌曲が私に合っていると畑中先生から勧められ、ロシア歌曲、オペラを小野光子先生から指導を受ける事になったのも、私の声楽の勉強の歩みの中で、大きな布石となりました。東京芸大大学院を修了後、愛知教育大学教員となり、発声法の研究を進め、

1995年には翌年から文部省在外研究員として海外で勉強出来る機会が与えられることがわかりました。私は、声楽の勉強を始めた当初から将来、世界的名オペラ歌手G.タッデイ氏のもとで勉強したいと思っていました。しかし、どうやってと考えていた時、幸運にも38年ぶりに氏が日本(藤原歌劇団)に歌いに来られることを知り、以前からお世話になっていた藤原歌劇団の演出家の松本重孝氏に紹介していただける事になりました。

その後、タッデイ氏とお会いし、1995年3月にローマで氏のレッスン生にして頂けるかどうかのオーディションを受け、レッスンを頂ける事になりました。それから先生が亡くなる4ヶ月前(2010年2月)まで15年間にわたり、先生のレッスンを受け、名古屋にも3度、演奏会に来て頂き、共演もさせていただきました。そして、最後のレッスンの時にお前だけに私の声、歌の秘密を教えてやると言われた事がその後の研究の最大のテーマとなりました。

私は、三室堯先生、畑中良輔先生、小野光子先生、Giseppe Taddei先生に師事できたこと、本当に幸運であったと思います。

この独唱会、その先生方と私を応援してくれた方々へ感謝の気持ちを持って歌わせて頂きたいと思っております。

林 剛一

プロフィール

林 剛一 (はやし こういち) バリトン

昭和59年東京芸術大学声楽科卒業、昭和61年同大学院修了。声楽家としては、日本演奏連盟主催推薦コンサート(東京)、ジョイント・リサイタル(神戸、名古屋他)など数多くの演奏会に出演し、平成元年以降神戸、名古屋で6回のリサイタルを開催する。またNHK・FM “春に巣立つ新人たち”、“土曜リサイタル”にも出演。ソリストとしては、第九、メサイヤ、メンデルスゾーンのエアリア(エアリア)、バッハのマタイ受難曲(イエス)、ヨハネ受難曲(イエス)、ロ短調ミサ、モーツァルト、フォーレのレクイエム他多くの宗教曲のソロを務める。オペラでは、関西歌劇団主催の“道化師”のシルヴィオでデビューし、その後、神戸、名古屋において神戸文化振興事業団(神戸アーバンオペラハウス)、名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団(日生劇場)主催のオペラを中心に“ラ・ボエーム”のマルチェッロ、ショナール、“ドン・ジョヴァンニ”のレポレッロ、“フィガロの結婚”のフィガロ、“魔笛”のパパゲーノ、“愛の妙薬”のベルコーレ、“椿姫”のジェルモン、“夕鶴”の運ず、“ヘンゼルとグレーテル”のペーター(父親)、“祝いうたが流れる夜に”の謙一他に数多くのオペラに出演する。1996年、文部省在外研究員としてローマにおいて世界的名歌手G・タッデイ氏のもとで研鑽を積み、その後も毎年ローマに赴き、氏の指導を15年間にわたり受けた。又、2000年、2001年、2003年と3度、氏を名古屋に招きオペラコンサートを開催し、共演する。

研究、教育者としては、“自然体による自然な発声”(自然な表情、明瞭な歌詞で歌う、聞いている人に気持ちを伝える方法など)をテーマにし、G.タッデイ氏の歌唱法、発声法が他の声楽家、オペラ歌手と全く違うことに着目し、氏から指導受け、その研究を進めている。近年は、大学連携によりみよし市の小学校児童への発声、歌唱指導や教員研修を行い、又、全国大会出場、上位入賞を目指す中学校コーラス部の発声指導なども行って、成果を上げている。

故 G.タッデイ、M. ボエーミ、故 畑中良輔、故 小野光子、故 三室 堯の各氏の師事。昭和62年4月愛知教育大学音楽科に助手として赴任し、現在、愛知教育大学音楽教育講座特別教授、名誉教授。令和8年3月末日退職予定。

林 邦子 ピアノ

昭和59年東京芸術大学ピアノ科卒業。昭和61年同大学院修了。卒業演奏会に出演。神戸、東京、宝塚、名古屋においてジョイントコンサートを開催。名古屋においてソロリサイタルを2度開催。声楽、その他の伴奏者として数多くの演奏会に出演する。イェルク・デームス氏、ジェームス・トコ氏来日の際には公開レッスンにおいて指導を受け、ゲハルト・オピッツ氏にもドイツ音楽の指導を受けた経験を持っている。第3回摂津音楽祭奨励賞及び市民審査賞を受賞。

故 林美奈子、竹尾聆子の各氏に師事。元名古屋芸術大学ピアノ科非常勤講師、ヤマハ主催のピアノコンクール等で審査員を歴任。ピアノ教育連盟会員。

